

■ 平成 26 年度 第 1 回 新潟市立豊栄図書館協議会

日時：平成 26 年 8 月 4 日（月）午後 2 時から

会場：豊栄図書館 集会室

（司 会）

では、時間となりましたので、平成 26 年度第 1 回新潟市立豊栄図書館協議会を開催いたします。本日は、お忙しい中、またお暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

はじめに、豊栄図書館長樺澤よりごあいさつ申し上げます。

（館 長）

本日は、お忙しいところ、当協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。感謝いたします。

新潟市立図書館は、19 の図書館と 27 の地区図書室が配置されております。そのうち、皆さんご承知のとおり、昨年度末で早通と木崎の二つの地区図書室が閉室となったわけでございます。それぞれの施設が指定管理に移行することを契機といたしまして、利用の少ない地区図書室を閉じたという次第でございます。一方、一昨年度は、亀田図書館が新築移転オープンしてございまして、本年度はこの 7 月 21 日に新津図書館がリニューアルオープン、さらに 8 月 20 日には坂井輪図書館がリニューアルオープンいたします。それぞれが中央図書館や豊栄図書館と同じく、窓口業務の業者を委託という形で運行いたします。これも時節柄、業務効率化及び民間活力の導入ということを進める社会的要請に応えなければならないということで、生涯学習施設にもそのような波及があるということを報告いたします。

さて、新潟市立図書館全体の図書の貸出数は、平成 24 年度の約 472 万冊をピークに昨年度は 460 万冊と落ちています。今年度も低い数字となっております。中央図書館のほうでは、貸出冊数のみならず、来館者も減少の傾向にあるということで、いずれも危機感を募らせているということでございます。豊栄図書館、松浜図書館においても、若干ではありますが、貸し出し冊数の減少があるということでもあります。

そこで、新潟市では、いわゆる登録率、図書の貸し出しカードの作成率が 20 パーセントを切って、およそ 17 パーセントということで下回っております。これはほかの政令市と比べましても、かなり低くランクされるものでありまして、新潟市では 4 月から、もうほとんど終わったのですけれども、現在まで 4 か所に配置されています学校図書館支援センターの職員が市内の全小中学校訪問をいたしまして、児童生徒から市立図書館の貸出カードを作成

してもらおうというキャンペーンを展開いたしました。幸いにも保護者のご理解がありまして、一定の成果を上げつつあるということですが、今後、さらに登録率の向上に努力しなければならないと思っております。

私ども豊栄、そして松浜図書館でも展示コーナー、あるいはテーマ図書コーナーの充実など、さらには魅力ある図書の購入選定、それから魅力ある書架構成などにできる限りの知恵と工夫を傾注してまいろうと思っておりますので、よろしくご審議いただきとうございます。

最後になりますけれども、このような状況にある図書館の利用拡大に向けまして、また本日の議題につきまして、委員の皆様から忌憚のないご意見をちょうだいいただければ幸いです。どうぞよろしくご審議くださいますよう、お願いいたします。

(会 長)

ただいま、樺澤館長からお話ありましたけれども、次第に基づきまして、議事に入りたいと思います。

2番目の議事及び協議であります。この番号順に進めてまいりたいと思います。

最初に、事務局から(1)平成25年度図書館事業及び図書館の利用状況について報告を求めます。

(事務局)

では、ご報告いたします。その前にここでお配りいたしました、資料の確認をさせていただきます。ただいま、最初にお配りしておりましたものを回収させていただきましたが、資料1「平成25年度北区内図書館事業報告(3月末現在)」、資料2「平成25年度利用状況及び蔵書冊数(3月末現在)」、資料3「平成26年度北区内図書館事業計画」はございますでしょうか。あと次第の後のほうに出てまいります「新潟市立図書館ビジョンの後期事業計画の作成について」というもの一枚。「『第二次新潟市子ども読書活動推進計画』の策定について」という両面印刷のもの、あとは委員の名簿がございます。このほか、事業評価をさせていただくに当たりまして、A3の縦長のシート1と横長のシート2をお配りしてあります。ないものはございませんでしょうか。カラー印刷のものは、図書館ビジョンの策定に関する概要版となっておりますので、ご覧になってください。

では、まず平成25年度図書館事業及び図書館の利用状況について、ご報告いたします。資料1をご覧になってください。訂正版のほうになります。1、乳児・児童・生徒読書活動の支援事業といたしまして、職員による「おはなしのじかん」とボランティアの皆様で開催していただきます「おはなしのじかん」を開催しております。豊栄図書館では、「わらべうたのじかん」が毎月第2土曜日の午後2時から未就学児の親子を対象に行いまして、平成25年度は10回開催し、54名の方にご参加いただきました。「おはなしのじかん」は、毎週

土曜日 10 時半から、これは 0・1・2 歳児とその保護者向けのものでございます。平成 25 年度から時間を変更いたしましたところ 51 回開催、315 名の方にご参加いただくことができました。次の日曜日の 10 時半からは 5 歳以上です。これは年齢を区切ってございますが、40 回以上、参加者 92 名でありました。松浜図書館は 0・1・2 歳児の保護者向けが木曜日の午前 11 時から、幼児・児童向けのものが毎週日曜日の午後 2 時から開催しております。0・1・2 歳のほうは、平成 25 年度から、幼児児童向けのほうは、平成 26 年度から時間変更いたしましたして、合わせて 45 回開催、170 名の方にご参加いただきました。

次の「ボランティアによるおはなしのじかん」は、豊栄図書館は 4 団体の皆さんが活動して下さっておりますが、平成 25 年度は全部で 50 回、ボランティア数は 103 名の延べ人数でございますが、ご協力いただきまして、228 名の方に参加していただきました。松浜図書館は、毎月第 2 土曜日、こんぺいとうの会がございまして、6 回開くことができまして、24 名のボランティアに参加していただき、聞き手は 22 名でございました。

2 ページ目にまいります。そのほかの子供向けの事業といたしまして、北区全体、これは新潟市全体で行っていることですが、「ブックスタート」を豊栄地域は毎月、松浜地域は隔月になりますが、1 歳児歯科健診のときにブックスタート、絵本をプレゼントする事業を行っております。平成 25 年度は 511 名の新生児といえますか、1 歳児の皆さんにお渡しすることができまして、こちらは歯科健診受診対象者の 91.4 パーセントでございました。豊栄図書館はほかに「春のおはなしリレー」、こどもの読書週間に合わせて、今年も 5 月 6 日で、豊栄図書館で活動して下さっておりますボランティア団体の協力を得まして、共催という形で丸一日お話し会を行いました。参加者は 25 名、ボランティアの方は 7 名のご協力をいただきました。「夏のおはなし会」は、おはなしの勉強会、ストーリーテリングの勉強会に参加して下さっているボランティアの皆さんと共催で、7 月 27 日に開催いたしました。こちらは、平成 25 年度からの新規事業でございまして、26 名の小学生から大人の方まで聞いていただくことができました。夏休みの事業としましては、ほかに「かがく実験室」、昨年度は洗濯ばさみでロケット発射台を作ったのですけれども、こちらは小学校 1、2 年生向けですので、10 名の参加をいただきました。「一日子ども図書館員」は、ご要望が多ございましたので、2 日間、3、4 年生と 5、6 年生と分けて行っております。

秋の読書週間に向けましては、「秋のおはなし会スペシャル」を 11 月 10 日に行いました。これは、ボランティアとは共催せずに職員がいつものおはなしのじかんを 1 時間拡大して行っているもので、昨年度は 19 名の方に聞いていただきました。その次の冬のスペシャルおはなし会は、おはなしの勉強会の方と共催なのですけれども、クリスマス時期に合わせて行っております。昨年度は 12 月 14 日に開催しまして、18 名の方に聞いていただきました。

そのほか、ボランティア養成講座として、ステップアップ講座としてその講座の修了生が行うおはなし会を1月に開催いたしまして、参加者 14 名、語り手は8名が自分で練習したものを披露させていただきました。

次に、松浜図書館のほうも夏休みは「一日子ども図書館員」を7月 26 日（金）に開催いたしまして、こちらは館も狭うございますので、4年生から6年生までが1日4名参加してくれました。松浜のほうでも、新規に平成 25 年度から秋におはなし会を11月3日の読書週間に合わせて行いまして、参加者が振るわなかったのですけれども、3名、聞いてもらいました。そのほか「ぐりとぐらのおえかき大募集」という福音館の50周年記念事業で「ぐりとぐら」のお絵かきを要望があった団体に配りまして、そこで小さい子たちに色を塗ってもらうという事業がありまして、参加者 38 名の小学生以下の皆さんに塗っていただいて、館内に飾ることができました。

次に、「講師派遣」でございますが、これは各学校、保育園等から要望があると職員が出向いて行って、おはなし会を開催したり、もしくはボランティアを紹介したりということをしておりますが、8月27日に横越小学校、28日は亀田西小学校、12月12日には豊栄南小学校のほうに職員が出向いて、おはなし会を開催いたしました。次に、「体験学習」でございますが、豊栄図書館のほうでは7校 17 名を受け入れることができました。昨年度は珍しく高校の参加がありまして、1名、高校生が女の子だったのですけれども、短い期間ではございましたが、職場体験をしていってくれました。視察・施設見学が小学生4校 207 名が来館してくれました。

次、松浜図書館でございますが、豊栄のほうは子供向けにお話を聞かせるというものだったのですけれども、松浜図書館は一般の方向けに講師にまいりまして、読み聞かせのポイントや手遊び、わらべうたなどを教授してきました。22名の参加がありました。これは、松浜の鷲尾囑託が出向いております。10月と11月は、親子でわらべうたを横越子育て支援センターのいちごっこ広場のほうで、親子を対象としたおはなし会とわらべうたの会をしております。松浜のほうも体験学習は、松浜中学校が1回2名来てくれて、体験していってくれました。

2、一般向け事業、読書会でございますが、豊栄図書館は児童書を取り扱って、特化した読書会でございます。こちらが中学生以上なのですが、昨年度は職場体験の子なども出てくれたりして、6回開催で28名の方と本について語ることができました。

そのほか、今年も行いましたけれども、笹を切ってきてまして七夕かざり、平成 25 年度からの新規事業でございますが、こちらは401名の短冊が笹にぶら下がりました。そのほか、「石塚さんの昔ばなしを楽しむ会」ですが、こちらはおはなしマドレーヌと共催でございま

す。平成 24 年度までは年 1 回だったのですが、平成 25 年度から 7 月、9 月の 2 回になりました。それぞれここ集会室でもやるのですけれども、けっこう埋まるくらいの参加をいただいております。また、今年も行いましたが、7 月 28 日「わくわく体験夏まつり」、これは図書館応援団が主体となって、こちらはほとんどお手伝いなのですけれども、共催の形を取りまして、一日、図書館で遊び倒してもらおうという企画でございます。参加者は、平成 25 年度は 509 名、ボランティアは応援団の方、17 名で開催いたしました。シールを集めたり、クイズをやったり、いろいろ催し物があって、子供たちは楽しんでくれたようでございます。

次に、「はしれ、きかんしゃ ちからあし」原画展でございますが、こちらは昨年度、相澤ミミ子さんがいろいろなところで、ご自分の「ちからあし」の原画を展示するに当たって、豊栄図書館が持っている額を貸してほしいということで、取引ではないのですけれども、その間、その額が開いているときは、豊栄図書館に飾らせてほしいとお願いしましたところ、8 月 3 日から 9 月 3 日まで無償で額を貸したおかげで何もお支払いすることなく、原画を飾らせていただくことができました。かなりの方が足を止めてご覧になっていまして、1,440 名の方にご覧いただくことができました。

次、「うちのコ（ぬいぐるみ）図書館お手伝い」は、子供だけでなく一人大人の方もいたのですけれども、ご自分の持っている大事なぬいぐるみを図書館に預けていただいて、1 週間ほど、図書館のお仕事をみんなしてもらって、写真をパネルにして、それを図書館の掲示コーナーに飾りました。「おはなしの勉強会」は、先ほど申しました、ボランティアのステップアップ講座のための勉強会でございます。本年度は絵本の読み聞かせではなく、ストーリーテリングを学んでもらって、自分たちの活動の幅を広げてもらおうという趣旨で開きまして、6 月から 3 月まで 7 回、講師は元豊栄図書館長・若佐久美子氏にお願いいたしまして、開きました。

「大人のためのおはなし会」、これはおはなしの勉強会の皆さんが自己研鑽のために行うのですけれども、やはり大人の前で話してみないと一人前ではないということで、秋と早春の 3 月に 2 回行っております。こちらも参加者が増えました。秋の講演会は、女優の中江有里さんをお招きいたしまして、今、葛塚コミュニティセンターになっていますけれども、そちらのホールを借りまして、10 月 5 日に、自分が本を書くことについてと本を読むことについてのお話をさせていただきました。普段にない参加を得まして、参加者 95 名の方に来ていただきました。

私、説明を間違いました。おはなしの勉強会とおはなしを語るを間違いました。すみません。

次が、「講座『おはなしを語る』」が、先ほど申しましたステップアップのための講座で、先に申しましたおはなしの勉強会は、この講座を卒業した方たちが自分たちでそのまま引き継ぎ、勉強をしている会でございます。大変失礼しました。

次は、「なじらね この本 本の森をつくろう。」というものがありますが、こちらは全市で行ったものでございます。秋の読書週間に合わせて新潟市全体の図書館で利用者の方にご自分の好きな本を紹介してもらおう。その紹介した紙にそれを読んだ方が「いいね」というシールを、ツイッターの紙版だと思っていただければいいのですけれども、やっぴいこうという企画でございました。こちら、豊栄は745名の方に参加していただきました。松浜のほうは、耐震工事が途中で入ってしまって、期間が短かったものですから、76名の参加でございました。松浜図書館のほうは、そのままりサイクル雑誌を配布することがありまして、2月の蔵書点検の最中に9団体の人に2年前の雑誌を持っていってもらい、そこで残ったものは、翌日から個人配布して552冊を配布することができました。

引き続きまして、③体験学習・視察等。「体験学習」、インターンシップ、昨年度1名、社会教育主事の資格を取る学生が1人行いました。1週間ほど、新潟大学の生徒が図書館で業務いたしました。ほかには4団体の方たちです。8月から12月まで図書館の視察・施設見学にお越しになりました。新発田の図書館づくりを考えている会の市民の皆様とか、あとは新潟県立図書館のボランティアの皆様が、豊栄図書館の視察に来られました。そのほか、啓発事業（広報）としまして、テーマ図書の展示を毎月3か所、担当を変えて行っております。今回は大庭みな子が新潟日報に載ったこともあって、イレギュラーにロビーのところに出ておりますけれども、それ以外、ティーンズコーナー、一般コーナー、児童コーナーというように職員が担当して行っております。そのほか「しらかし」は、平成25年度から松浜図書館の「あかしあ」と合併いたしまして、松浜図書館の職員も一緒に記事を書いて発行しております。昨年度は4回、発行することができました。少し業務が遅れておりますが、なるべく隔月で発行できるように頑張っております。そのほか、ティーンズ通信は、やはりまたメンバーも増えたりしまして、ちょうど10代後半から20代前半くらいの方たちが協力してくださって、毎年3回発行することができています。

4、図書館ボランティア活動ですが、豊栄図書館のほうは水曜日と日曜日、配架・書架整理のボランティアが参加してくださってまして、66回延べ91名の方が常に水曜日と日曜日はエプロンをして、豊栄図書館の書架をきれいに整えてくださっております。松浜図書館のほうは、毎月第1水曜日の本の補修がございます。10回開催して、19名の方が破れたり、フィルムが取れたりしてしまっている本の補修。あとは雑誌の糸縫いです。のどのところを縫う作業などをしてくださっております。

学校支援センターのほうは、中村のほうからご報告させていただきます。

(事務局：中村)

5 ページ、5、学校図書館支援センターです。訂正版の訂正をお願いしたいのですが、対象として学校からの相談業務は、学校司書のみでなく、学校図書館担当教諭なども担当しております。研修の主催のところの対象が学校司書のみを対象ということで、そこを入れ替えのような形で訂正をお願いします。

上のほう、学校訪問ですが、学校訪問は、学校図書館支援センターが重点を置いている事業です。4月から7月までに北区・江南区 37 校をすべて訪問し、新採用司書のいる学校には年3回、そのほか要請のあった学校を訪問し、4月から3月まで、延べ 81 回訪問いたしました。相談業務ですが、学校からの相談は、本の情報提供のほかに選書ですとか、書架の配置など、さまざまな実務相談があります。前年度よりも大幅に増加しておりますが、これは江南区への本の搬送が平成 25 年度、中央図書館から豊栄図書館に変わったことに伴う相談の増加が考えられます。その後、4 行くらい研修がありますが、学校司書新規採用研修会は、新規採用者 19 人のうち北区・江南区の新規採用者 7 名でした。それから、教諭と司書の連携研修会は、総合教育センターと共催で行う研修です。全市で 170 名の参加のうち北区・江南区からの参加は 39 名でした。豊栄図書館、学校図書館支援センター主催の研修を学校司書対象に行いました。6 月に小中学校別の蔵書の更新研修、9 月に講師を招いて図書館ディスプレイの研修を行いました。2 月に学習活動と学校図書館を結ぶ実践発表と講演を行いました。それから、学校貸出搬送ですが、北区・江南区の学校へ公共図書館の本を搬送を使って貸し出した冊数です。昨年の約倍になっていますのは、先ほども触れましたけれども、平成 24 年度北区だけだった搬送担当が平成 25 年度から江南区も加わったことによる増加です。それから、「どんぐり文庫ブックバス図書配送配付」です。平成 23 年度に廃止になりました、どんぐり文庫、ブックバス、この二つの事業で活用しておりました本が約 27,000 冊ありました。その本を平成 24 年度は豊栄地区の小中学校に配付しました。そして、平成 25 年度は江南区にも広げ、希望の本を配付しました。また、図書館司書のいない東区と西区にある特別支援学校からも希望があり、本を配付いたしました。そのほかはご覧のとおりです。

(事務局)

すみません、もう一つ。引き続きまして、資料 2 「平成 25 年度利用状況及び蔵書冊数」のご報告をさせていただきます。

開館日数が平成 24 年度より少し少なくなっておりますが、これは松浜図書館が、先ほど申しましたとおり、耐震工事のために平成 25 年度 11 月 11 日から 12 月 9 日の約 4 週間休館

したためでございます。蔵書冊数は、豊栄図書館分が 7,000 冊ほど減少して、今、平成 24 年度の 20 万冊から 19 万冊になっておりますが、こちらは、飽和状態であった書棚を開架書庫含めまして、職員全員で整理し、精査した結果、このように少なくなりました。現在もまだ、作業が進行中でございます。そのほかは昨年並みとなっております。その中で貸し出し冊数が平成 24 年度より、微増ではありますが増加いたしました。下のほうにほかの中心館の数値も出ておりますが、当館と同規模である新津図書館と利用状況は同じようですが、今年、先ほど館長もご報告いたしました、7 月 21 日に新津図書館の新館を古い館の隣に新しい図書館をオープンさせまして、夏休みということもあって、連日にぎわっているようなのですけれども、今年度の利用が増加すると思われま。その影響がどれくらい出るか、今年度は分かりません。入館者数は平成 24 年度より 7,000 人ほど減少いたしました。これは、ただでさえ利用が少なくなっている中に、7,000 人も少なくなったのはなぜなのだろうとびっくりして考えたのですけれども、考えられる要因としては、平成 25 年 10 月の亀田の新館のオープンがあるのかと思っております。このような中でも、豊栄図書館は、おかげさまで、昨年度 12 月 1 日に来館者 300 万人を達成することができました。ありがとうございます。ほかに予約件数は、微増ではありますが、利用されている皆さんが大分、予約システムに慣れてこられたのか、少しずつ増えてはきております。平成 25 年度の事業及び利用状況の報告は以上です。

(会 長)

実績及び利用状況、三つほどご説明いただきましたが、これにつきまして質問、意見等ありましたら、随時、お願いしたいと思います。私らは毎日、図書館に来ているのですが、このようにまとめてもらいますと、大体の傾向が 1 年間で見えていくわけです。これについて何かご意見、ご質問等があったら何でもけっこうですが、藤尾さん、何かありますか。

(藤尾委員)

いえ。

(河内委員)

よく分からないのですけれども、資料 1 の裏のところで、その他の事業で豊栄とあるので、そこのおはなしリレーも、かがく実験も、一日体験もみんな平日に行っているというのは何か。例えば、休日だと、もう少し広い範囲の子供たちが来られるのかと。平日だと。

(事務局)

すみません、春のおはなしリレーは、祝日なので、読書週間の祝日に開催いたしまして、夏のおはなし会は土曜日、かがく実験室も夏休みなので。



(河内委員)

8月、そうですね。

(事務局)

7月31日は夏休みに入ってから小学生に参加してもらおうということで。

(河内委員)

なかなかこの辺の子は歩いて来られるから、子供だけでも来られるのですけれども、葛塚小学校の子たちは多分、いっぱい来られるのだけれども、車でないと来られないけれども、やりたい子はいるのかと思ったりしたもので、なぜ平日なのかと。夏休みでも親というのは働いているので、うちでぶらぶらしているだけの子は多いと思うのですけれども、その点、葛塚小学校の子は近いので歩いたり、自転車で来たりして利用しているのだと思うのです。そもそもこの辺だけの子がきつとしているのかなと思って、なぜ平日なのかと思いました。

あともう一つ、分からなくてすみません。視聴覚資料というのは、学校で貸し出ししているのでしょうか。

(事務局)

CDは貸し出しできますが、DVD等の映像資料は著作権法がございましてできません。申し訳ありません。

(河内委員)

分かりました。ありがとうございました。

(会 長)

2ページ下の体験学習のところ、前年が4校で7名受入、去年は7校で17名というのは、こちら側からの要請が効いたというか、学校側のほうからの強い要請があったということなのでしょう。

(事務局)

これは主に、こちらも受け手の側で、学校のほうから申し入れがございまして。春くらいになると一斉に皆さん、職場体験をお願いしますということでご依頼がまいります。

(会 長)

職場体験というような感じなのですか。

(事務局)

そうですね。職場体験学習ですね。

(会 長)

今、高校は豊栄高校しかないみたいですがけれども、自分の就職探しの糧にしていくという人でしょうか。

(事務局)

一般の方は、そこまでお申し込みはないですし、こちらとしてもちょうど受け皿がないですけれども。

(館 長)

豊栄高校の女生徒。

(事務局)

はい、女の子。

(館 長)

これはあくまでも体験したいなということです。

(会 長)

これは、7校あたりが受入の限界ということですか。

(事務局)

時期が重なってしまうと、せいぜい1回に4名くらいしか受入ができないので、例えば2名お願いしますという学校が2校あれば、それは同時に一緒に体験していただきますけれども、同じ時期に4名ずつ2校から依頼があると、お断りすることがあります。

(会 長)

受入図書館の問題だろうと思いますけれども、可能であればもっと増えれば、図書館の理解度を深めるためにはいいと思います。

あとは聞いてみたいことはございませんか。

(藤尾委員)

すみません、以前、ご説明いただいたのかもしれないのですが、北区の江南区の関係というのは、どういう関係なのですか。

(事務局)

支援センターのことでしょうか。学校図書館支援センターというのは、新潟市に四つあるのです。それで2区ずつ担当するというので、それぞれ割当として、豊栄図書館は北区と江南区を担当しているということで、中央図書館は東区と中央区を担当する。西川図書館は西区と西蒲区、白根は秋葉区と南区というように、8区を2区ずつ分担しているということです。

(伊藤委員)

3ページの一般向け事業の読書会についてなのですが、中学生以上の方々が集まって、1冊の本を読み合う。例えば、こういった本を共通課題として。

(事務局)

豊栄図書館は、児童書に特化しているのです。ですので、「黄色い目の魚」を書いた佐藤多佳子さんという方が書いた「一瞬の風になれ」とか、それ以外でしたら「指輪物語」とか、児童文学を題材にしております。

(伊藤委員)

中学生は何人くらいですか。

(事務局)

平日の午前中なので、中学生はなかなか。

(伊藤委員)

第2火曜日の午前中なわけですね。

(事務局)

はい、第2火曜日の午前10時半から12時なのですけれども、職場体験の子たちがちょうどそこに来たときは、一緒に入ってもらったりしています。

(会 長)

ほかにございますか。ここで聞くべきことか分かりませんが、第2段あたりで江南区の図書館と文化会館をくっつけたみたいなものができましたよね。ああいうものの数字というものが恐らく出てくると、大きなボリュームとして可能性が高いわけですね。

(館 長)

どういうボリュームが。

(会 長)

入館者数とか。それから、新しくしたから、本もたくさん買入れるということはないかもしれませんが、利用度のアップといいますか、利用ボリュームのアップというのは、非常に大きく効果という意味で、単独の一つを見ると、文化会館と博物館組織と一つの単語を入れてしまうでしょう。

(事務局)

うちは単独館ですのでね。

(事務局)

ただ、取り方によりますけれども、入館者数が図書館のところについていけば、図書館だけの入館者になりますし、ただ、会長がおっしゃるとおり、複合施設で、ほかの施設に来た人が、ついでに図書館に寄ってという利用効果は出てきてしまうかもしれません。

(会 長)

全体としての数字でとらえるから。

(事務局)

そこまでという気はしますが。

(会 長)

同じ市、同じ区でやっているのに。全体としてお客さんに来てもらうということだから、図書館だけ頑張るとか、そういうことではないわけですね。

(事務局)

はい。

(会 長)

いずれにしても一回は行ってみたいなど。

昨年度の状況報告につきまして、いかがでしょうか。昨年度の分につきましてはよろしいですか。

続きまして、(2)今年度の事業計画についてお願いします。

(事務局)

では、今年度の事業計画について、ご説明させていただきます。資料3の1ページからご覧ください。1乳児・児童・生徒読書活動の支援事業。こちらは今までどおり、豊栄は「わらべうたのじかん」と「おはなしのじかん」。松浜図書館は「おはなしのじかん」を開催してまいります。わらべうたのじかんは未就学の親子なのですが、この前、夏休みのせいもあってか、第2土曜日、小学校中学年くらいまで入ってくれてにぎわってしまって、うるさかったということもあるので、これはやはり日本語を獲得するという意味を含めての事業でございますので、子供向けの事業でございますので、利用者の皆様のご理解を得ながら実施してまいりたいと思っております。おはなしのじかんは、毎週土曜日の10時半からと日曜日10時半から。0・1・2歳とその保護者向けを土曜日にやり、日曜日は5歳以上、これは豊栄図書館の職員が行うおはなしのじかんは、幼児からとはしないで、自分一人でおはなしの部屋に入れる子供を対象にするということになっておりまして5歳以上となっております。その代わり大人が入れません。大人がいると、どうしてもお母さんに甘えてしまう。結局、一人で聞けないという状況になりますので、子供の自立を促す意味でも、この線は変えないでいこうと職員では話しております。松浜図書館は、木曜日の午前11時から0・1・2歳向けとその保護者。これは、お話のコーナーが松浜図書館にも絵本のコーナーがあるので、そこで行っておりまして、話し声がするので、利用者の方には理解をいただきまして、館内で開催しています。日曜日の午後3時から、公民館の部屋をお借りしまして、幼児・児童向けの読み聞かせを開催しております。これは、今年度から日曜日の午後3時に時間を変更いたしました。やはり平日の夕方だと子供が来られませんので、日曜日の午後3時ということに、松浜図書館職員が決めて、開催しております。

②その他の事業、北区内では「ブックスタート」を引き続き、開催してまいります。また、この春の読書週間に合わせまして、これは全館事業だったのですけれども「るーぽん！おすすめの本」という、また利用者に本の紹介をしてもらおうということで、子供たちに黒井健がかきました、中央図書館のマスコットキャラクター「るーぽん」の絵を用意しまして、それに色を塗って、自分の好きな本を書いてもらうという事業でございました。豊栄図書館では76人の子たちが書いてくれたのと、その子が紹介した本を展示コーナーに飾りまして、披露させていただきました。大分、そうしておく動きがよかったです。松浜図書館のほうでは63枚書いてもらったので、それを貼り出しておきました。

豊栄図書館では「春のおはなしリレー」、今年もボランティアの皆様にご協力いただきました5月6日、これも祝日でございますが、幼児・児童向けに開催いたしました。28名のご参加をいただきました。夏のおはなし会は終わったのですけれども、まだ人数が把握できておりませんが、おはなしの勉強会と共催しまして、7月26日（土）午前中に開催いたしました。いよいよ8月5日（火）からなのですけれども、夏休み事業が始まりまして、今年度はブーメランを作って、小学校1、2年生の子たちにもできそうなブーメランを作ってもらって飛ばして、遊んでもらおうと思っております。そのほか「一日子ども図書館員」は、3、4年生が7月29日に終わりました。これは、男の子ばかりでした。大分楽しんでくれたようで、参加してよかったと。全然、学校が違う子たちだったのですけれども、すぐ意気投合して、大いに満喫して帰ってくれたようで、こちらとしてもうれしかったです。秋には秋の読書週間に合わせて、図書館職員によるおはなし会をまた計画しております。冬は、クリスマス時期におはなしの勉強会の皆さんにご協力いただいて、おはなし会を開催いたします。松浜図書館でも7月に「一日子ども図書館員」を実施しました。また、現在、「図書館でビンゴ」というものを開催中で、ビンゴゲームのビンゴですけれども、おはなし会に参加したり、ブックリストに載っている本を借りてくれたらスタンプを押して行って、ささやかではありますけれども、列が揃うとプレゼントを差し上げております。最近、おはなしの会に参加する子供が減っていたのですけれども、ビンゴのおかげで大分稼いでいるようでございます。

③講師派遣等は例年どおりご依頼いただければ、要請に応じて我々が出向いたり、ボランティアをご紹介したりしてまいりたいと思います。

2の一般向け事業でございますが、読書会を例年どおり計画しております。これは奇数月の第2火曜日の午前10時半から正午の時間に開催いたします。先ほども申しましたとおり、豊栄図書館は、ほかの館では自分の好きな本を持ち寄って紹介し合うとか、テーマ図書でも一般書が主だったりいたしますが、豊栄図書館は児童書に特化した読書会となっております。

②そのほかの事業、今年度は、北地域のブックスタートボランティアが不足していることを受けまして「ブックスタートボランティア養成講座」を8月に予定しております。今のところ若干名の募集なのですが4名程度の方が応募くださいますので、8月6日と29日に北地域の公民館で講座を実施いたします。そのほかにも、今年度はボランティア養成講座を実施しまして、9月からでございますが、北区内での読書推進活動につなげていければと考えております。

そのほかでございますが、「テーマ図書」は引き続き、今後、いっぱい棚から出して飾って、皆さんに見ていただいて、少しでも利用につながればいいと思っております。そのほか「しらかし」を松浜図書館と一緒に発行してまいります。豊栄では「ティーンズ通信」に引き続き活動して、まだやめるとはだれも言っていませんので、10代の方たちが一生懸命作ってくれることになっております。

(事務局)

3ページ、4学校図書館支援センターの平成26年度事業計画です。今年度は、三つ重点として、個別支援と研修の充実、そしてどんぐり文庫ブックバスの配付を重点として進めております。個別支援の一つとして、学校図書館訪問。4月から7月に北区と江南区37校を館長と担当職員で訪問しました。今年度は学校図書館支援センターが学校訪問を通じて、公共図書館の貸出カード作成をお願いし、ご協力いただきました。そのほかに途中採用の2校や要請があった学校にすでに7回訪問しております。それから、研修ですが、学校司書の新規採用者研修会は、今年度5回、予定しております。本年度の研修対象者は16名中の半分の8人が北区と江南区の学校司書です。

それから、主催研修、第1回豊栄図書館学校図書館支援センター学校司書実務研修会は、小中学校それぞれを会場にいたしまして、蔵書の更新件数を行いました。情報交換の時間を多く取って、学校司書同士の連携を深めてもらいました。2回目は9月に、3回目は1月に予定しております。それから、団体貸出の搬送事業ですが、授業に役立つ本を公共図書館から貸し出しし、搬送しています。単元に合わせた本をセットにしたオレンジBOXも好評です。ただ、同じ資料が同じ時期にたくさん必要になって、なかなか手に入らないことがあります。学校司書は先生方から早めに情報をいただいて、早めに依頼してきたり、授業の時期を調整することをお勧めしたりして、工夫しています。どんぐり文庫ブックバス図書の配付ですが、平成24年度は豊栄地区、平成25年度は北区、江南区の小中学校が対象でしたが、今年度は全市に呼びかけました。そして小学校48校、中学校19校が本を選びに来館しました。南区や西蒲区など遠くからもお出でいただき、4,282冊を配付しました。各校で役立てていただければと思っております。そのほかはご覧のとおり。

(事務局)

5 そのほかは、ボランティア活動の受入です。豊栄図書館にご登録いただいている4団体の読み聞かせ団体の皆様と、松浜図書館はこんぺいとう、そのほかこちらもこの前、7月27日に実施いたしました。わくわく体験夏まつり、豊栄図書館応援団の皆さんと共催いたしました。このほか、ボランティア交流会は、豊栄と白根、西川、中央のボランティア団体の交流会も計画されております。そのほか配架・書架整理、修理のボランティアを随時受け入れしてまいりたいと思います。

(会 長)

平成26年度の件は進んでいるわけですがけれども、昨年のものに比べて新規というのはどれくらいでしょうか。新規はどれかと。

(事務局)

新しくというのは、始めてないです。通常のもをもう少し拡張するなりしていこうというところがございます。読み聞かせの講座等を行うので手いっぱいといいますか、そのほか秋の講演会等の準備等も入りますので、今年度は翻訳家の金原瑞人氏を計画しております。法政大学の先生なのですけれども、ティーンズ、いわゆる10代向けの本をたくさん訳していらっしゃる方で、20歳で芥川賞を取った金原ひとみさんのお父様でいらっしゃいます。

(会 長)

皆さんから、今年やっているものについてのご意見、ご質問等ありましたら。

(白杵委員)

今年のボランティア活動支援の中で、図書館で配架とか書架整理は、随時と書いてあるのですがけれども、前に聞いたときに、どこかボランティアのグループに入らないと。

(事務局)

応援団です。入らないとできないです。応援団に入ってください、応援団の方が配架のレクチャーをしてくださって。

(白杵委員)

そこに入らなければ、単独に入ってお手伝いしたいということとはできない。

(事務局)

そうです。そこはお任せしています。

(会 長)

館長、いいですか。私は、自治協議会のほうへ、例の松浜方面から来るバスは土、日、月を除いてですよね。データも見ていないし、始まったばかりですが、効果は出てきそうでしょうか。

(事務局)

直接図書館への効果というよりも、ビュー福島潟、遊水館が8割以上だと思うのです。図書館にもたしか来ているのです。ボーイスカウトみたいな格好で、指導者と子供たちが来ていたり、そういうものを散見しますけれども、確実にどれくらい来たかという把握はしていません。

(会 長)

月末までデータが出るのでしょうけれども、私もかかわっている責任者として、何もできないのだけれども、たまたま話していたのですけれども、うちの子で、来年、小学校へ上がる子がいるのです。バスが無料なのだけれども、小学生以上と書いてあるのです。うちの子は、今年、まだ年長でしょう。新潟から小学校4年生の孫がいるのだけれども、一緒に行くようになると、うちの孫は乗れないのかと。そこまで聞いているわけです。よほど小さい子は別だけれども、普通いいでしょう。

(事務局)

あれは自治協議会の提案事業ですよ。ですから、ある程度、緩くしてもいいですよ。

(会 長)

それがこの辺のいろいろな施設に少しでもにぎわいを与えてくれれば子供たちも喜んでくれる気がするのですけれども。既に平成26年度も計画に沿って動き出していますが、子どもたちが喜んでくれるような運営をお願いします。では、このことにつきましては、終わりにしたいと思います。

続きまして、3番目ですが、図書館評価について、事務局からお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。この議題につきましては、後ほど、皆様から評価いただくということで、私も一生懸命説明したいと思っておりますので、よろしくをお願いします。A3で2枚のものです。これをお手元にご用意してください。

まず、最初にシートNo.1ということで、縦長の「平成25年度新潟市立図書館施策・事業評価シート」と上のほうに書いてあります。これから、ご説明したいと思います。一番左側、区分欄をご覧くださいと思いますが、ここに記載されているもの、これは新潟市立図書館の目指すべき図書館像ということで、課題解決、分権型、学・社・民融合、パートナーシップという四つの柱に区分しまして、それぞれこれに沿って事業展開を行ったというものです。これは、あくまでも平成25年度の方でございますので、行ったというものです。その区分の右の欄ですが、事業名の欄、◇があるものが新潟市全館共通です。ここで言えばレファレンスサービスです。それから、◆は豊栄図書館の重点評価項目という意味でございます。



区分欄、事業名欄をご説明いたしました。それでは、事業名ごとに概要、実施結果、自己評価ということで見ていくことといたします。最初にレファレンスサービス、いわゆる調査・相談の充実でございます。ここをご覧いただきますと、前年度対比で大きく減少してございます。安定したといえば安定したのですが、一定の工夫を行ったのですが、かなり大きく減少しています。思うようにサービス効果は上がらなかったと考えます。来館される方の気づきを誘う表示やPR方法などの工夫が必要でないかと、私どもは考えています。自己評価欄におおむねそのような意味を書いてございます。前年度が801件、これが500件に落ちたという意味です。次に、館の重点評価項目の予約件数の増加でございます。目標には達していませんけれども、年々増加傾向にあるということで、さらに活用されるようにPRに努めてまいりたいと自己評価してございます。

それから、次に、分権型というところで、地域資料でございますけれども、蔵書冊数は約9,000冊です。貸出冊数は2,000冊程度ということでとどまっております。方形の部屋の2階の奥の棚にあるということで、利用者から分かりづらい配架となっているのではないかと感想もありますので、サインなど工夫が必要ではないかということを考えております。

次に、学・社・民融合のブックスタート事業です。1歳誕生歯科健診会場で赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを行うという事業ですが、大変好評で、体験していただく方も増えています。健診受診率も増加するという相乗効果を上げているという自己評価をしたいと思います。次に、読み聞かせボランティアへのステップアップ講座の実施を行ってすそ野を広げたいと。小中学校図書館への支援でございますが、支援センターでは、実施結果欄にありますように、記載のとおり貸出図書搬送、職場体験、施設見学、37の学校司書への支援など、広範にここでいう学・社・民の融合活動を行ったものと考えております。

最後に、パートナーシップのところの共催事業の実施、ボランティアとの協働ということで、図書館まつりですとか、おはなし会、配架・書架の整理など大変ご協力いただいて、連携、協働を効果的に行うことができたものと考えております。

以上、外部評価の欄にあります、ここでいうと7項目について、1から3までのご評価をいただきたいというものでございます。

次のシートNo.2、横長のものをご覧ください。これは、新潟市立図書館の指標別評価シートでございます。まずはじめに、左の区分欄、図書館運営に区分される基本的サービス4項目について、平成23年度から平成25年度までの数値を記載しております、これを比較しながら自己評価したというものです。ここでは自己評価欄をご覧いただきますと、蔵書冊数の減少は、予算の削減によるところもありますが、開架・書庫ともに。

それでは、元へ戻りまして、シートNo.2の横長の「平成25年度新潟市立図書館指標別評

価シート」をご説明いたします。まずはじめに、図書館運営に区分される基本的サービス4項目について、平成23年度から平成25年度までの数値を比較しながら自己評価していきたいということです。数値を見ますと、ほとんど減となっております。これについては、当然、時節柄、予算の減もあるわけですが、うちの石田主任からも話がありましたように、開架・書庫ともに満杯、飽和状態であったものを少しずつ整理していると。そういうことで、来館者の見やすい配架を検討中であるということで、若干ですが、貸し出し冊数の減少が続いているのですけれども、皆様が動く生活動線上に、この図書館が入れるように、先ほど、会長が言われましたように、図書館も生活の延長の一部として、もっと親しまれるような広報等に努めてまいりたいということが、図書館運営に関する自己評価でございます。数値をご覧いただいても、目標に対しても減と。それから、年度ごとのものに比べても減と。登録者数は増えているわけですが、減少傾向にあるというものでございます。これについて外部評価の1から3を評価して、ご意見があれば右側の空白にお寄せいただきたいということです。

それでは、次に区分欄では、施策・事業に区分される課題解決型4本柱に基づきまして、平成23年度から平成25年度、そして中ほどに平成25年度の目標があったわけでございます。これをざっと見ますと、真ん中ほどに評点ということで1と評価してありますが、目標を大きく下回った4と評価してあるものが目標値を上回って達成したということで、真ん中の評点の1から4も自己評価した点数でございます。それでは、順を追ってまいりたいと思います。最初に、課題解決型2項目でございます。自己評価欄をご覧ください。北区の利用者は、予約して本を取り寄せるというよりも、あるものを利用する機会が多いということから、オール新潟の図書館の180万冊を利用できるということをしてPR、浸透を図らなくてはいけないという評価でございます。次に、分権型2項目でございます。自己評価欄、なかなか蔵書の目標は達成できましたが、今後はより来館者が利用しやすいように整理を進めるということでサイン表示とか、郷土資料、地域資料を増やしていかなければならないということです。今のところ、いずれも評点は低くございます。

次に、学・社・民融合です。ここへいきますと、評点の高いものも若干出ております。自己評価、児童書全体の貸し出し冊数は減少いたしました。小中学生への貸出が持ち直しつつある。休日のみならず平日でも小中学生が図書館を利用できる方法を検討していきたいということです。先ほどのお話にもありましたように、小学生ですとなかなか遠くからは来られない、中学生ですと自転車で来られるかもしれない。親御さんの時間のあるときでなければ車で来られないというような事情もいろいろあるかと思いますので、いろいろな方法をとらえて検討していきたいということです。

最後にパートナーシップ型が3項目。ここへきますと、評点も少しよくなっています。ボランティアの参加が増加しています。講座を開くことによって、新たに図書館の事業に参加して下さる方も、少しずつではあるが増えていると。劇的に増やすことはできませんが、こつこつと活動を続け、図書館運営に参加してくれるボランティアの方々と喜んで増やしていただくことをお願いしたいということになっています。1から3まで、パートナーシップ型3項目ということになります。それから、委員の皆様には、後日、外部評価欄にどれかを選んで丸囲み、それからブランクのところにご意見があれば記載されて、豊栄図書館に郵送などをお願いしたいと思っております。締切日、それから返信封筒など、それに必要な連絡事項などを記載した文書を同封して皆様にお送りしたいと思っておりますので、どうぞよしなにシート1、シート2に忌憚のないご意見を後日、お寄せいただきたいというものでございます。

(会 長)

この紙を持っておくわけですか。

(事務局)

そうです。この紙をお持ちいただいて、そこに記載したものを後で返信用封筒とか、連絡文書をお送りしたときにお送りしていただいてけっこうです。もし、必要であれば、もう一度、同じ文書をお配りしますけれども、なくしたという方もいると困るのですけれども。

(会 長)

真ん中の自己評価を受けて。

(事務局)

受けて、外部評価というところに1から3までのどれかを選ぶ。そして、ご意見があったら、右側にあいているブランクの空白のところにご意見をお寄せいただきたいというものでございます。

(会 長)

ということですが、期限とかそういうものはまた出てくるのでしょうか。

(事務局)

一応、今月いっぱいと考えているのですけれども、それは同封した案内文書で連絡事項もあるかもしれませんので、締切日にしたいと思います。なお、その際は、皆さんの意見がまとまったら、委員長からお出ましいただいてまとめの総括のお願いも一緒にさせてもらいたいと思います。

(会 長)

ということですが、よろしいでしょうか。後日、また文書がいきますので、よろしくお願

いします。

では、次に（４）について。

（事務局）

これまた長い説明になるのですが、全図書館協議会共通の読み原稿がありまして、これが皆様のお手元にあります資料の棒読みみたいになっているのです。「新潟市立図書館ビジョンの後期事業計画の作成について」という資料をお開きください。A4両面一枚ものでございます。それとカラーで印刷しました、新潟市立図書館ビジョンという両方をお手元にお願います。長い説明になると悪いので早くで読みますけれども、皆様はお手元の資料をお目通しいただくという形でお願います。大変恐縮です。全部読めという指示ですので。

それでは、新潟市では、平成17年の近隣13市町村との合併後、平成19年4月に政令指定都市となりまして、区政がしかれたと。秋にほんぽーと中央図書館が開館いたしました。そのときに、新潟市は大きな変革の時期を迎えまして、図書館についても、進むべき方向をしっかりと確認しておく必要があるのではないかと強く感じまして、新潟市の図書館の今後あるべき姿を市民とともに考え、平成22年に、ここの概要版にもありますが、新潟市立図書館ビジョンを策定いたしました。今年平成26年は、真ん中の5年という折り返し地点になりますので、これまでのあゆみを振り返りまして、取組みの成果を確認するとともに、積み残し課題を整理し、後期5年の取組みを生かしてまいりたいと考えています。今後の予定や委員の皆様にお願することなど、これから説明いたしますので、ご協議いただきますよう、お願います。

新潟市立図書館ビジョンの概要を右のほうに置いて参考にしていただければと思います。まず、1番目、後期事業計画作成の目的ですが、新潟市図書館ビジョンは、平成22年からおおむね10年間を通じて、目指す図書館像を実現するために策定したと。同時に、前期5年の事業計画を作成し、今年度平成26年度で5年目を迎えましたと。そこで後期平成27年度から平成31年度の3年間で新潟市の目指す四つの図書館像を実現するため、後期事業計画の作成を今年度に行います。2番、実施機関、平成27年度から平成31年度の5年間、3現在の主な取組みと実施状況については、図書館ビジョン概要版の四つの柱それぞれにつきまして、（1）図書館情報システムによる充実したサービスの運用とレファレンスサービスの充実という施策では、市立図書館全館をオンライン化し、どの図書館でも市立図書館資料を提供できるということに成果としてあります。それから、オンラインデータベースの提供やビジネス支援サービスを提供するという事です。地域資料の体系的な収集や地域の声を反映した図書館運営という施策では、各区を代表する地域資料の形成と展示ということになっています。それから、（3）子供の読書の環境の整理、それから保育園・学校等との連携

と支援というところでは、ブックスタート事業の実施、それから支援センターを設置、それから小中学校の図書館活用の支援を実施ということです。現在の取組みです。（４）利用者・市民が図書館運営に参画する場の設定、ボランティア等団体との連携や協力という施策では、各区中心館に図書館協議会、皆様の図書館協議会を設置して、合同情報交換会を秋に実施ということです。それから、大学・子育て支援など、民間団体との連携事業を開催ということです。以上のような事業を実施してきたということです。

次に、４、前期取組みの主な成果と課題です。まず、成果ですが、（１）全館オンライン化し、どの図書館でも全部の資料を提供できるようになった。（２）全館データベースの利用は可能、レファレンスサービスの充実、中央図書館だけですがビジネス支援サービスを実施。（３）市内全区でブックスタートを実施、それから支援センターを設置し、全小中学校の支援を行ったりして、子供の読書環境の整備を推進しています。（４）中心図書館に図書館協議会を設置して、図書館運営に参画をお願いしている。（５）読み聞かせボランティア団体の情報交換会の実施、図書館との連携を深めているということです。

課題としまして、（１）から（５）。（１）図書館を利用していない方への図書館利用の働きかけと電子書籍導入の検討や来館困難者、高齢者への効率的な貸出システムの検討が課題としてある。レファレンスサービスの周知拡大が課題としてある。（３）資料のデジタルアーカイブ化、これは文化資源をデータ化して保存等を行うアーカイブ化や資料の保存計画の完成、地域資料を活用した事業の実施が課題ではないか。もう一つ、東区に中心図書館がないということも課題ではないか。位置づけがないということも課題ではないか。（５）ボランティアの継続やステップアップのためのサポートが必要なのだと。これらが上げられるということになります。

次に、５評価です。図書館が提供するサービスや業務に対して評価を行う基本的な考え方に変更はなく、利用者満足度調査結果や図書館協議会による外部評価を行います。施策事業にかかる評価指標について、効果的で分かりやすい評価指標の検討も計画作成と同時に行います。

次に、６事業計画作成方法については、新潟市立図書館、事務局は中央図書館ですが、六つの図書館協議会の意見を参考に、このビジョンの後期事業計画を作成しますと。中央図書館、そして皆様のご意見を参考に事務局が事業計画を作成します。また、坂井輪図書館協議会が、今年度やっと設置されるので、その機能が整ったところで坂井輪もこの六つの図書館協議会にご意見をいただくということになります。

最後に、作成のスケジュールにつきましては、本日の後期事業計画作成についてと前期の主な取組状況、成果や課題の説明を今、いたしましたけれども、その後、秋 11 月だと思ひ

ますが、合同情報交換会で事業内容を説明し、皆様からのご意見をいただく予定にしています。その後、来年度、多分2月か3月ごろ、第2回目の図書館協議会を開きますので、そこで決定した後期事業計画を報告してまいりたいということになります。

大変長くなりましたが、以上で新潟市図書館ビジョンの後期事業計画についての説明を終わらせていただきます。

(会 長)

質問はいいでしょうか。

では、最後になりますが「第二次新潟市子ども読書活動推進計画」、これは内容が違うのでしょうか。

(事務局)

はい、では、私のほうから説明させていただきますが、プリントは「『第二次新潟市子ども読書活動推進計画』の策定について」という中央図書館サービス課のプリントとカラー印刷されています検討体制というものと有識者の名簿が載っているプリントがあるかと思いますが、その3枚についてご説明いたします。

1 計画策定の趣旨です。(1) 新潟市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成22年に現行計画を策定いたしました。子どもたちが本に親しみ、読書習慣を身につけることを願い、子どもたちにかかわる人や機関が連携して、豊かな子どもの読書環境づくりを進めることを目指したものです。

(2) 現行計画の主な取り組みとして、新潟市のすべての1歳児を対象としたブックスタート事業と学校図書館支援センターを中心とした、学校図書館の活性化が上げられます。

(3) これらの取り組みにより、本市の子供の読書環境の整備は改善されましたが、子供の年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向は、依然としてあります。

(4) 平成26年度で計画期間を終了するため、現在までの成果と課題を踏まえ、新潟市教育ビジョン第3期実施計画との整合性を取りながら、子どもたちの読書環境の整備をさらに目指し、来年度から5年間の第二次計画を策定いたします。

そして、2計画の範囲ですが、図書館だけでなく、教育委員会及び市長部局の実施する子どもの読書にかかわる施策を対象とする全市の計画とし、3計画期間は来年からの5年間とします。

4 策定体制については、カラープリントのほうをご覧ください。現行計画策定の際に関係する方による新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議を立ち上げました。計画策定後も年に2回、会議を開催し、計画の進行管理を行うとともに、連携を進めてまいりました。この庁内推進会議13課3機関で第二次計画を策定します。策定にあたり、5人の有識者によ

る有識者会議を開催し、意見をいただきます。あわせて関係団体からの意見をいただき、素案についてはパブリックコメントを行います。図書館協議会の皆様からは、11月に開催する図書館協議会合同情報交換会でご意見をいただく予定になっております。最初のプリントのスケジュールは、ご覧のとおりになっております。そのほかに最初のプリントの裏面に子どもの読書活動に係る国、県、市の主な動きが記載してあります。また、5人の有識者委員の名簿も資料としてつけてありますのでご覧ください。

以上、説明を終わります。

(会 長)

聞きたいことはございますか。先ほど館長がお話した、新潟市の平成27年度からの5年間の計画ですが、これは今、進行している市の8年間の総合ビジョンの計画に加わるということとは違うのですか。

(事務局)

これとは別物でございます。別立てで新潟市立図書館のビジョンがあります。

(会 長)

こんな分厚いものの中とは別個のものということですね。

(事務局)

これについては、本物はこれくらいで、すごく見やすいものです。これは概要版ですけども、割と分かりやすいです。例えば、豊栄図書館でいろいろアンケートを取って、どこを改善したらいいとか、そういうビジョンが本物の冊子があります。そんな厚いものではありません。したがって、後期事業計画についても、中身は当然、変わりますけれども、柱は同じだと思いますので、似たような事業を推進するということとなります。後期4年分ですが。

(会 長)

それは、区ごととか、そういうものではなくて、新潟市図書館全体ですね。

(事務局)

図書館の問題です。

(会 長)

今、二つ話が出ましたけれども、これについて、私はやらなければならない宿題とか、そういうものはありますか。

(事務局)

ありません。11月の皆様が合同情報交換会になかなかご出席になれませんけれども、会長、もしくは副会長に何とかお願いして、できるだけ多くの委員の方から、11月の合同情報交換会に出ていただいて、そして豊栄図書館協議会のご意見を申し述べるという形になら

うかと思えます。

(会 長)

ということですが、皆さん、質問、ご意見ありませんか。いまいちピンとこないですね。

(事務局)

実は、私どももピンときていないのです。

(河内委員)

先ほどと被るかもしれないのですけれども、利用者を増やすというところで、今年、学校のほうで説明して何か配ったという話で。

(事務局)

貸出カードの作成を。

(河内委員)

あれはとてもいいと思えます。先ほども言ったのですけれども、なかなかここに来られない子、親がいなくて来られない子もいると思うので、子どもが興味を持って親を刺激するという逆パターンでやっていただきたいと思いました。

あと、お恥ずかしいことなのですけれども、「しらかし」というものは学校で配っているのですか。どこでどう配られているのでしょうか。

(事務局)

協議会の皆様には、できあがるとお送りしているかと思いますが、学校までは配っていません。あくまでも一般向けなのでここで配ったり、図書館のほうには各図書館に配って、見てもらってくださいと。学校まで行っていません。

(河内委員)

私のところに来て回覧したりしているのですけれども、ほかで全く見たことがなかったので、どこでどうなって、一般の方はどうなっているのだろうか。

(事務局)

図書館に出しておいて、来館された方は、皆様ご自分で。

(館 長)

興味のある人は持っていつているという感じですね。

(事務局)

はいそうです。

(河内委員)

分かりました。ありがとうございました。

ティーンズの編集者というのは、どのようにして選ばれているのですか。10代の子とい



うのはどういう子なのですか。

(事務局)

募集しなければねと。昨年度というか、この3月くらいに一番年長だった方が、ご自分も就職というか、生活が変わるので。

(河内委員)

高校生ですか。

(事務局)

高校生ではないのです。彼女は専門学校生だったのでしょうか。高校生の方もいらっしゃいます。もう来られなくなってしまったということ、あくまでもボランティアなので、こちらも無理強いはできませんので、ところがでは募集しなければと言っていたら、利用者の中から「やっていいですか、やりたいのですけれども」という手が挙がりまして、ではぜひということで。途切れないのです。

(河内委員)

いいですね。

(事務局)

ありがたいことに一人、二人来てくれるので助かっています。

(河内委員)

分かりました。ありがとうございました。

(会 長)

いかがでしょうか。今日は盛りだくさんで、とりあえず走ってきましたけれども、全体を通して何かご意見ありませんか。

(事務局)

会長すみません、作りました。7月にできたばかりできたてはやほやで、裏には夜の図書館の夜の図書館の日没を待つて撮りました。表側の中は、見取り図で、とりあえず豊栄図書館はいろいろなところからの視察が多いのです。夏になると建築を勉強されている学生たちも参りますので。

(会 長)

その点を配慮した形ですね。

(事務局)

そうですね。サービスうんぬんではなくて、ただの施設案内でございますので、皆さんに持って行っていただければ、利用されればと思っております。

(会 長)

うちうちで話していると、役所で作った建物だから、有名な建築家だから、大学生とか高校生とか、敷居が高いと思っている人がいるのです。高いも何もないです。どこの図書館も同じだと言っているのだけれども、有名になってしまうのでしょうかね。

(臼杵委員)

これは図書館ができて、初めてこのパンフレットができたのですか。

(事務局)

いえ、できたときにはもっと立派なものがあったのですけれども、さすがにもう十何年もたっていますので、今回、新しくリニューアルさせていただきました。もっと持って帰りやすい大きさと、市外とか県外の方も、一般の方でも見ていいですかと、写真を撮りたがる方もいらっしゃいますので。

(会 長)

写真撮るのに中へ入ってきて、勉強している人を無許可で撮ってはダメなのでしょう。

(事務局)

だめです。一応、見学の方は受付というか、カウンターへ申し出ていただきたいと。こういう名札を写真撮影中ですと。そうでないと危ない方も来るので、びっくりしますよね、普通、こうやって本を読んでいてフラッシュをたかれば、一般の方はびっくりしますので、そういう注意事項を何点かさせていただいて、許可しております。

(会 長)

ご提供するお話は何かありませんか。

(臼杵委員)

聞いてもいいですか。「しらかし」の後ろの外国語の絵本の読みきかせというのはどうだったのですか。

(事務局)

盛況でした。ただ、参加申し込みが必要だったのと保険料が100円いる。それは、大した問題ではなかったようなのですが、北区は少し少なかったのです。中央図書館などでやると、もっと申し込みがあったらしいのですけれども。

(会 長)

何回かに分けてありましたよね。

(事務局)

ところが国際交流協会の方も、参加が少なくてPRが足りなかったですねと反省しておられたのですけれども、ロシアの方と中国の方、大きな壁でしたか、ここでやってくださいまして、ゲームもやってくれたみたいで、子供たちは楽しんでくれたみたいで、北区在住の

バングラデシュとか、パキスタン人の子供も、当日、お世話係の方が申し込んでくださって来てもらいました。

(会 長)

館長、区役所でも市役所でも、いろいろな立場で仕事をしているわけでしょう。その中で、地方自治体の中で、その地域の中で図書館が文化面でも何でもいいのですけれども、その中の役所の施設の中で、非常にリーダー的な立場を取っているような地域はあるのですか。

(事務局)

図書館がリーダーということには、なかなかならないと思います。生涯学習施設の一環でするので、やはり区役所の中の生涯学習施設として、公民館と連携したり、そういう位置づけでするので、リーダーという形には図書館はなりづらいです。

(会 長)

というのは、館長もお話したけれども、こういう本があるのです。私もジュンク堂へ行って、紀伊國屋へ2回行って、やっと手に入れたのです。「沸騰! 図書館」、人口5万人の佐賀県の町が東大出の若手の人が市長になって、図書館について市議会全員とけんかしながらやって、とうとう日本一の図書館にした。人口5万人で図書館に入る人が年間100万人を超えるのですから。あちこち拾い読みですけれどもすごいですね。北区も7万人のまちで20万人くらいしか来ないわけでしょう。そうしたら隣にある県庁所在地の佐賀市の図書館がぐっと減ったというのです。中身は現実はどういうものなのか、よく見てみないと分からないけれども、市長の意向がすごいのです。市議会議員を全部敵に回しても作ってやるという姿勢が載っているのです。今、ほとんど売っていません。紀伊國屋も結局、予約して、本を作っているところでは全国から来ているものだから、もう在庫がありませんと。紀伊國屋も全国の支店のどこかにあって、それを取り寄せてくれた。

(事務局)

紀伊國屋は店頭在庫をすぐ取り寄せてもらえますからね。

(会 長)

では、よろしいでしょうか。これでおしまいにしてよろしいでしょうか。

今日は、大変暑いところ、ご苦労さまでした。